

● 目次

- 2 ひと人ヒト (久保雅博さん)
- 3 **特集** 笑顔で子育て
～七尾の子育て支援～
- 10 情報ランド (お知らせ)
- 16 みんなの本棚/児童館へ行こう
- 17 イベント情報
- 18 広がれ!市民のわ/
市長コラム/市長談話室
- 20 市民相談
- 21 休日医療情報/不用品活用銀行
- 22 まちの顔
- 24 土門拳写真展 (七尾美術館) /
わが家のアイドル

● 今月の表紙

7月8日から11日にかけて、能登演劇堂で行われた「等伯～反骨の画聖～」公演。今回の公演は、長谷川等伯の没後400年を記念して特別に企画されたもの。

舞台上では、公開オーディションで選ばれた11人の市民と無名塾の塾生7人が共演。京都に上り、狩野派と争いながら名をはせた等伯の波乱の人生が描かれた。また、国宝「松林図屏風」に込められた等伯のふるさとへの思いも表現され、会場の観客は400年の時を越えた世界に酔いしれていた。

プロの役者の気迫はもちろん、市民キャストの演技も光り、市民参画の手作り感あふれる演劇は、地域に根ざした演劇によるまちづくりの新たな一歩ともいえるものだった。

ひと

ヒト

「日室の鎌祭」を
守り続けたい久保くぼ 雅博まさひろ

さん

61歳

(矢田町)

「人手不足は深刻ですが、今までのやり方を変えずに、先人の思いを何とかつなげていきたい」。そう話すのは、日室の鎌祭り保存会で事務局を務める久保雅博さん。自身も矢田町に住まいを構えながら、日中は田畑の管理などのために、実家のある日室での生活を送る。

「日室の鎌祭」(県指定無形民俗文化財)は、江泊町日室の諏訪神社で毎年8月27日に行われる風鎮祭のこと。神社の拝殿で神事が行われた後、当元を務める久保さんの手によって神社の神域に立つタブの木に雄鎌と雌鎌の2丁1対の鎌を鉋かまの背を使って打ち込む。五穀豊穰と豊漁を願う神事らしく、鎌は魚の形にかたどられ、目や口だけではなく、エラや背ビレ、尻ビレまで丁寧に細工が施されている。

「人手不足は深刻ですが、今までは鉄工所」に製作してもらい、8月25日に大地主神社へ出向き、日室から持参した大榎おおいのきに出来上がった1対の鎌を結び、神前に供えてお祓いを受ける。同日、日室へと持ち帰られた鎌は、「作十郎の堂」と呼ばれる場所に安置され、27日を迎える。

以前は14〜15軒あった世帯も現在ではわずかに3軒が残るのみ。保存会はあるものの、中心となる日室の住民は高齢化が進み、今後の運営には大きな不安が残る。それでも「全国でも珍しいとされる『鎌祭』を末永く続けたいという気持ちがある方には、ぜひ協力を願いたい。多くがお金で解決できる今の世の中で、こんな祭りがあってもいいのでは」とその思いは熱い。

● 久保雅博さん
☎ 53 | 4 5 3 7
(矢田町) または ☎ 58 | 1 1 7 7
(日室) まで

特集

笑顔で子育て

七尾の子育て支援

「働く」という選択。
「子育て」という現実。

子育てを楽しむよりも

子育てに苦しんでいませんか？

子育ては楽しいことばかりでは
ありません。

不安になったり

悩んだりすることもあります。

そんなとき

周りの助けを借りながら

乗り越えていくことで

子育ての楽しさを

実感できることもあります。

あなたの子育て 応援します！

七尾市には

充実した子育て支援サービスが

たくさんあります。

安心して働き

笑顔で子育てできるように

皆さんを応援します。

